

**Foto de Tiquicia No. 10**

撮影: 足立力也

ハキリアリ



英名 : Leafcutter ant  
学名 : *Atta cephalotes*  
分類 : ハチ目アリ科ハキリアリ属  
体長 : 17~25mm  
生態 : 名前の通り、葉を切るアリ。植物の葉を鋭い顎で切り取り、集団で巣に持ち帰る。ただしそれは直接食べるためではなく、それを苗床にして菌糸を植え付け、その菌類を食べるのである。つまり彼らは「農耕種族」なのだ。人間が農業を始めるはるか以前、約5000万年前にこの形態に進化したと言われている。人間なんて、まだまだ遅れた存在なのだ。

コスタリカ写真集「プラビッシマ! II」(弊所にて絶賛発売中!)より

**コスタリカツアー、4年ぶりの催行!**

内容盛りだくさん!

**コスタリカ・ピース&エコツアー**

2024年9月8日~15日、4年ぶりにコスタリカ・ピース&エコツアーを催行いたしました。内容は、首都サンホセ近辺でのスタディツアーと、郊外のエコ・ローカルツアーの2段構成。サンホセでは国会、ゴイコエチエア市議会、最高裁判所(憲法小法廷)、選挙最高裁判所、会計検査院、幼稚園、国立子ども病院を訪れました。民主主義や人権、自由などについて、軍隊がない国ではどのように捉えられ、機能しているのかを直接見聞し、日本との圧倒的な違いをまざまざと見せつけられました。



「けもみち」ではしっかりナマケモノも観察!

郊外では、幻の鳥・ケツァールの聖地となっているロス・サントス生物回廊の中心であるパライソ・ケツァール・ロッジを訪れ、しっかりとケツァールを観察できました。道中、コスタリカの48年革命発祥の地となったラ・ルチャ農園につくられた平和博物館を見学し、現在のコスタリカがつくられた発端と過程について学びました。さらには、トラピチェ統合農園との協働で弊所が企画・運営する「なまけもの通りみち」(けもみち)も訪問し、地域の人びととの交流やナマケモノ観察、さらには苗の植え付けまで行いました。今回のツアーは、これまで以上に内容が多く、よりたくさんの成果が挙げられました。詳しくは次ページ以降でご紹介いたします。



伝統衣装に身を包んだコスタリカの人たちと

今号の主な内容:

- P2: コスタリカの民主主義、人権、自由
- P3: 持続可能な自然との共生のあり方

# コスタリカ人にとっての民主主義、人権、自由

## 【コスタリカにおける民主主義の実践の実態】

まず訪れたのは、革命発祥地であるラ・ルチャ農園。1948年革命の父であるホセ・フィゲーレスが反政府闘争を開始した場所です。当時実際に使っていた建物を利用して2020年に博物館となりました。革命暫定政府のトップとなったフィゲーレスは、陸軍司令部要塞の壁をハンマーで打ち壊し、軍事とは縁を断つというメッセージを世界中に発信しました。そのハンマー（写真）が中央に飾ってあり、「丸腰国家」としての誇りを感じます。



2日目の夜には、サンホセ市郊外にあるゴイコエチエア市議会を傍聴しました。地方議会は平日夜に開催され、議員たちも市民も昼の仕事や学校の後に参加します。誰も傍聴できない平日昼間開会の日本と比べ、実に合理的。市民参加の度合いも桁違い。傍聴席にはマイクがあり、事前に許可された市民が自由に意見を表明します。議長や議員、市長までもがそれに応答し、開かれた議論が展開されます。それに対して傍聴者たちもプラカードを掲げて意見を主張します。日本とは大違いですね。



傍聴席から発言する市民代表(左)と、プラカードを掲げて意見を主張する若い傍聴者たち。向かって左側が議場

この日は、市のマーチングバンド関係者が訪れ、予算だけでなく人事についても配慮するよう市議会に求めていました。市長や議長、議員たちもバンドの実績などの問題を指摘し、オープンな議論が繰り広げられました。**これがコスタリカの「民主主義」「市民参加」です。**

## 【行政府の一部局が大統領を訴える憲法小法廷】

その後訪れた会計検査院は、ちょうど大統領に対して違憲訴訟を起こしているところでした。アテンドしてくださった院顧問は、大統領が会計検査院の権限を縮小しようとするのに対して厳しく批判。そのあけすけな様子は聞いていたこちらがびっくりするほどでした。日本では行政府の一機関がその長を訴えるなど、まずありえません。それがコスタリカで起こるのは、各部局の人たちが**自らの職責に高い誇りを持っている**からです。それを侵すものは、大統領でも容赦しません。

訴えを受け付けた最高裁判所・憲法小法廷は、大統領に対して明確に違憲判決を下しました。これも職責に対する強い誇りが可能としたものです。憲法小法廷では、毎年3万件もの違憲・人権訴訟を取り扱います。窓口



(写真)では法律に疎い人のため走り書きでも受け付けてくれます。大統領に違憲判決が下されたのも一度や二度ではありません。

## 【コスタリカ人であることは自由であること】



帰国当日はコスタリカの独立記念日。その前日、サンホセ市郊外のティバス地区を訪れました。小学生から高校生まで、子どもたちが独立を祝い物を公園で開催していたので、そこにお邪魔しました。彼らは国旗色の民俗衣装を身に纏い、伝統的なダンスを披露していました。日本で愛国心というと何やら押し付けがましい雰囲気を感じますが、**コスタリカで愛国的であるということは、自由を重んじるということ**。だからこそ、大人から子どもまで、みんなで心から独立を祝えるのです。

# 持続可能な自然との共生のあり方と「けもみち」

## 【生物回廊のロッジから“幻の鳥”ケツァールを発見！】

ケツァールは「幻の鳥」とも呼ばれ、見た者に幸福が訪れるとすら言われるほど滅多に見ることができません。ロス・サントス生物回廊があるドータ地区では、1980年代からケツァールが食するアグアカティージョの木を植え、その美しい鳥を呼び戻そうとしてきました。そのリーダーが、今回のツアーで一泊目を過ごしたパライソ・ケツァール・ロッジのオーナー、セラーノ一家です。

彼らは、農園や牧場を営む周囲の人たちの反対にもめげず、エコツアーに訪れる観光客相手のロッジを営みながら黙々と植林を続けてきました。その結果、今やいつでも見られるほど多くのケツァールがやってくる森となり、エコツアー関連で多くの雇用も生んでいます。

到着して驚いたのは、そのロッジのレストランから野生のケツァールを発見したことです（下写真）。ケツァールは山奥をテリトリーとするため、人家の近くなどには基本的に姿を現しません。もちろん、ロッジのようなところに近づくこともありません。ところがこの日は、ケツァールを探しにいくツアーに出発する前に、もう見つけてしまったのでした。私（足立）も長年このロッジにお世話になっていますが、こんなことは初めてでした。自然の回復ぶりに本当に驚くとともに、セラーノ家の先見の明と努力にあらためて敬服しました。



## 【みんなでつくる「なまけもの通りみち」】

今度は私たちの番、ということで、弊所が企画・運営する「なまけもの通りみち（けもみち）」も訪れました。首都サンホセからバスに揺られること、約3時間。2000m級の山を超え、海拔0m地帯まで一気に駆け降ります。バナナプランテーションが見えてきたら、目的地のトラピチェ統合農園はもう目の前。途中、ホエザルなどを見かけつつ、私たちは「けもみち」に到着しました。

さっそく、「けもみち」を管理するアギラール一家が歓待してくれました。農園で採れた野菜で作ったランチをいただき、伝統的なサトウキビ搾機「トラピチェ」でサトウキビジュースを搾り、それを煮詰めてキャラメルを作って食べました。自然の恵み100%の甘みは最高！

午後は農園内を散策。私たちがカカオ・バニラ・コショウ・コーヒーを植えている「なまけもの通りみち」の区画を案内してもらいました。長くても植え付けからまだ2年半しか経っていないのに、人の背丈をはるかに超える木もたくさん！実をすずなりにしたコショウや、本来なら4～5年はかかるカカオに最初の実がなり



トラピチェでサトウキビからジュースを絞る工程

はじめるなど、目に見えて成長が確認できました。

翌日は、ツアーのお客様お手ずから、バニラやカカオの植樹をしていただきました。バニラの蔓を50cmほど切り取り、ナマケモノが好きなポロの木に縛りつけます。バニラはこれだけで、自ら蔓と根を伸ばして自生します。同様にカカオも植えていただき、どちらにもご自身のお名前プレートを掲示して、作業は完了！実がなるのが楽しみです。

その後、再び農園内を散策しました。今度は、ナマケモノがいないか、樹上を観察しながら歩いてみました。なかなか見つからず、一周して帰ってしまいそうになった時……いました！エドウィナの子・ソルでしょうか。お腹を上にして、じっとしていますが、少し動いています。よく見ると、おなかの上に赤ちゃんがいました！

「けもみち」に、新たな命がまた誕生しました。のちにこの子は

「パス」（スペイン語で「平和」の意）と名づけました。彼らが平穏に暮らせる森の農園として、この「けもみち」をもっと大きく育てなければなりません。

現在、「けもみち」に植えられている、みなさまからご支援いただいている木の数は135本ほど。これを1000本にまで拡大させることで、ナマケモノの一家が安心して生活できる広さの森を確保することができます。

後日、この地域を担当する国家地域保全庁の担当者で地域の生物回廊を統括する環境エネルギー省職員と会談し、「けもみち」の存在を公式に伝えました。1週間後、その職員から「けもみち」を生物回廊国家プログラムの一部として位置付ける旨の連絡いただきました。私たちが100%民間事業としてはじめた「けもみち」も、いよいよコスタリカ全体の生物回廊の一部として認識されたのです。皆様のさらなるご支援をいただき、1000本分の区画を埋め、人間とナマケモノたちが一緒に暮らせる「森の農園」を作っていきましょう！



バニラの植え付け

## 資料室から～記念コインにあふれる祖国愛

代表理事が3種類の記念コインを仕入れてきました。通常の500コロン（写真右上）より小さいサイズ。表はほぼ同じデザイン、裏がそれぞれ違っていきます。



本欄右側に掲載している写真、下列の左からそれぞれ紹介します。

- ・コスタリカ（中米）独立 200 周年
- ・コスタリカ共和国建国 175 周年
- ・軍隊廃止 75 周年



左下の独立200周年を祝うコインには、コスタリカの地図が刻印されていますが、「Isla del Coco」、ココ島もきっちり！肉眼では確認しづらいですが、動画（上掲QRコードからどうぞ！）でしっかり紹介されています。オフィシャルサイトでのこの力の入れよう！さすが、コスタリカですね。

中央は国章、一番右はかの有名な、フィゲールスが壁を壊している時の写真。この時使ったハンマーが、2ページで紹介しているラ・ルチャ農園のドン・ペペ博物館に展示されているものです（ドン・ペペはフィゲールスの愛称）。

ちなみにコインの下のバンダナはコスタリカの伝統的な装いにも使われるもの。この黒色のほか、国旗色の赤・青・白のカラーバリエーションがありますよ。  
（資料室司書・セグア）



## 研究所年間サポーター／「けもみち」支援者大募集中！

当研究所は、不確かで不安な未来に対し、希望ある将来を提示するための**社会科学的調査・研究**を、「丸腰国家」から「持続可能国家」へと変貌を遂げようとしている**コスタリカ**という国を通じて行う、**独立した民間の機関**です。

当研究所では皆様からの「**公共投資**」として、年会費を拠出していただく**年間サポート会員を募集**しています。会員の皆様には、機関紙やメルマガなどで「未来志向の社会実験」を続けるコスタリカの最新情報をお届けします。



弊所公式サイト



Facebook



メール



その他、会員限定の特典や割引などもございます。当研究所の趣旨にご賛同いただける方は、ぜひ会員となってお支えいただければ幸いです。年会費は下記口座にお振り込みもしくはオンライン（弊所公式サイト）にてお支払いいただけます。

また、常時ご寄付も受け付けております。銀行振込の他、弊所公式サイトではクレジットカードやPayPalでのお支払いもできますので、ご活用ください。また、弊所が企画運営するコスタリカの生物回廊農園「**なまけもの通りみち**」へのご支援もどうぞよろしくお願いたします。詳細は3ページもご覧ください。皆様のご支援をお待ちしております！

「なまけもの通りみち」ご支援お申し込みは以下QRコードから！

### ■各種振込先

- ・福岡銀行  
博多駅前支店  
（普）3423080
  - ・ゆうちょ銀行  
記号：17480  
番号：81944571
- 名義：一般社団法人コスタリカ社会科学研究所



編集後記：今回のコスタリカツアーは大成功でした。以前より多くの場所を訪問し、現地の方々との文化的交流も楽しみました。今年も夏にツアーを催行したいと考えております。専門家のガイドつきでコスタリカを直に知りたい！という方は、ぜひ弊所までご連絡ください。生のコスタリカを体感しましょう！（足立）

### <発行>

一般社団法人 コスタリカ社会科学研究所  
〒812-0011  
福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目19番17号  
トーカン博多第5ビル 312号室  
info@costa-rica.jp